

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-197003

(P2017-197003A)

(43) 公開日 平成29年11月2日(2017.11.2)

(51) Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)
B60Q 1/18 (2006.01)		B60Q 1/18	Z	3K339
B60Q 1/00 (2006.01)		B60Q 1/00	C	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号	特願2016-88946 (P2016-88946)	(71) 出願人	306024838
(22) 出願日	平成28年4月27日 (2016. 4. 27)		株式会社環境科学研究所
			大分県津久見市大字長目 1 7 5 4 番地
		(74) 代理人	301064389
			早野 民生
		(72) 発明者	早野 民生
			大分県津久見市大字長目 1 7 5 4 番地
		Fターム(参考)	3K339 AA02 BA07 BA09 BA22 BA26
			CA03 FA05 FA08 GB01 JA01
			KA37 MC77

(54) 【発明の名称】 夜間右左折時照明装置

(57) 【要約】

【課題】薄暗い場所や夜間、自動車を運転しての交差点右左折時等、急角度で曲がる際、歩行者や障害物等の発見が遅れ、歩行者を巻き込み、あるいは撥ねる等の事故を防止するため、進行方向を明るく照らすとともに、エネルギーのロスを極力抑える。

【解決手段】自動車の方向指示器のレバー操作を2段階とし、さらに車幅灯と連動して点灯するように配線され、方向指示器のレバー操作の2段階目と連動して点灯・消灯する広角度を照らす灯火装置を自動車の前部右角及び左角に設置する。

【選択図】なし

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

レバー操作を２段階とした、自動車の方向指示器レバー

【請求項 2】

車幅灯と連動して点灯するように配線され、尚且つ請求項 1 のレバー操作の２段階目と連動して点灯・消灯する自動車の前部右角及び左角に設置された、広角度を照らす灯火装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

10

本発明は、薄暗い場所や夜間、自動車を運転しての交差点右左折時等の際、曲がる進行方向を照射し、歩行者や障害物等を発見しやすくする装置に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、自動車の照明設備である前照灯は、前方のみを照らすように固定されているため、真正面の比較的狭い範囲しか見えない。

【0003】

そのため、夜間において交差点などの右左折時等、急角度で曲がろうとしたとき、進行方向が暗くて見にくいため、事故を誘発する危険性が高い。

【0004】

20

この改善策として、ハンドルと連動して前照灯を動かす考案があるが、この場合は、懐中電灯を揺らしながら歩いている場合のように、ちらちらして見にくくなるため、かえって危険である。

【特許文献 1】実願平 1 - 19050**【0005】**

又、前面又は側面に、方向指示器と連動させたライトを設けるとの考案もあるが、この場合、車線変更時等の不必要な時でさえも点灯することとなり、他の併走又は後続の車両にとって危険となる可能性があるとともに、明るい真昼間まで点灯することは、膨大な数の自動車が存在する現代社会にとってエネルギーの無駄遣いとなる。

【特許文献 2】実願 2012 - 2441

30

【0006】

さらに、短距離用ドライブライトを設け、車輪のステアリング偏向量に応じてこれに供給される電力を制御するとの考案は、構造上複雑となり、又、明るい真昼間まで点灯することは、膨大な数の自動車が存在する現代社会にとってエネルギーの無駄遣いとなる。

【特許文献 3】特開平 10 - 250460**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0007】**

薄暗い場所や夜間、自動車を運転しての交差点右左折時等、急角度で曲がる際、進行方向が暗くて見にくくなる。

40

【0008】

そのため、歩行者や障害物等の発見が遅れ、歩行者を巻き込み、あるいは撥ねる等の事故がたびたび起こっている。

【0009】

そこで、解決しようとする問題点は、これらの場合、歩行者等を的確に捉え、事故を未然に防止する点にある。

【0010】

さらに、エネルギーの無駄遣い、あるいはエネルギー危機が声高に叫ばれている現代社会において、この無駄遣いを同時に最小限にしながら課題を解決する点にある。

【課題を解決するための手段】

50

【 0 0 1 1 】

薄暗い場所や夜間での交差点右左折時等、急角度で曲がる際のみ、進行方向を広範囲に照射すればよい。

【 0 0 1 2 】

そこで、自動車の方向指示器のレバー操作を２段階とし、さらに車幅灯と連動して点灯するように配線され、方向指示器のレバー操作の２段階目と連動して点灯・消灯する広角度を照らす灯火装置を自動車の前部右角及び左角に設置する。

【 0 0 1 3 】

自動車を運転する場合、前方には特に注意を払うため、少々暗くなっても前照灯を点けずに走行している車両もあるが、その場合でも車幅灯は点灯していることが多い。したがって、前照灯ではなく車幅灯と連動させた。

10

【 0 0 1 4 】

大型等のトラックやバス等、車長が長い自動車の場合、両側中程等に同様の灯火を追加設置すれば、さらに視認上効果が大きい。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 5 】

この灯火装置により、歩行者や障害物等の発見が容易となり、見えないことによる事故の発生を未然に防止することが可能となる。

【 0 0 1 6 】

必要なときにのみ点灯させることにより、エネルギー消費量を極力抑制できる。

20

【 0 0 1 7 】

急角度で曲がる場合は、速度はあまり出すことはなく、遠方を照射する必要はないため、大きなエネルギーを要せず、通常、片側それぞれ高角度照射灯１個で通常足りるため、装置を単純化できる。

【 0 0 1 8 】

自動車メーカーが燃費データを偽造するなどエネルギー消費効率を大きく問題視する現状において、事故防止効果の拡大とエネルギー消費効率を両立させることができる。

【 0 0 1 9 】

自動車１台だけではエネルギー消費量の抑制効果は少ではあるが、現代社会においては膨大な数の自動車が走っているため、その総量における抑制効果は大きい。

30

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 2 0 】

この発明は、乗用車・貨物自動車等を問わずあらゆる車両に対して応用可能である。